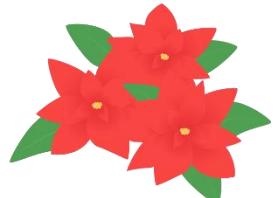




【 目 次 】

- ▶ つながる わらう
わかる ゆるす (副会長)
- ▶ 第55回研究大会 参加者の感想
- ▶ 飯南町の事務グループ活動について
- ▶ 学校紹介
- ▶ まんが「しまじいとけんくん」
- ▶ 編集後記



つながる わらう わかる ゆるす

副会長 横貝淳子

秋空の11月7日、ビッグハート出雲において第55回島根県公立小中学校事務研究大会を教育関係諸機関・団体のみなさまのご支援・ご協力のもと、無事開催することができました。今年度も参集とオンラインのハイブリッド形式としましたが、多くの方にご参加いただき大変ありがとうございました。また、開催にあたり出雲教育事務所管内研究大会準備委員会のみなさまには細やかな心配りで大会運営にご尽力いただき、大変お世話になりました。

午後からの講演では、「学校における業務改善」と題し、ベネッセ教育総合研究所 教育イノベーションセンター 主席研究員の庄子寛之さまにご講話いただきました。軽妙な語り口に引き込まれあつという間の2時間でした。この講演のキーワードが「つながる わらう わかる ゆるす」でした。振り返れば前回出雲大会は世界中がコロナウイルス感染症の恐怖に包まれていた頃でした。本研究大会の開催も1年延期したのに紙面開催という形での実施となり、それまでのあたりまえの概念が大きく崩れ、大きな変革の数年でもありました。この時期を経て、今改めて「つながる わらう わかる ゆるす」の言葉にふれ、本質に向かい、理解できた気がします。お話を聞くなかに「人はないものに目が行きがちになるが、あるものに目を向けよう。感謝と笑顔を」との言葉もありましたが、まずはそこから意識を変え、笑顔でつながっていきましょう。業務改善と聞くと、とかく物的な改善を思い浮かべがちですが、まず自分の意識を変えることが業務改善の入り口かもしれません。

また、第六次研究中期計画4年目の今年度からは本格的に応用研究がスタートしました。ここでも「つながる わらう わかる ゆるす」がキーワードになります。多くの人と笑顔でつながることで今の実践を新たなステージで展開していくかと思います。そしてその先に「つかさどるの形」が見えてくるのではないでしようか。

さて、今年もあとわずかとなりました。多くのみなさまのご協力に感謝し、ともに笑顔で来年を迎えるかと思います。引き続きご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

第55回 参加者 島根県 の感想 公立小中学校事務研究大会

期日；令和7年11月7日(金)

会場；ビッグハート出雲



<応用研究発表>

実践発表者

大田市立静間小学校	主任 岩谷 勇 良
隠岐の島町立五箇小学校	主事 塚田 会令加
川本町立川本小学校	主事 永井 菜摘
松江市立意東小学校	主任 樋ヶ通子
雲南市立掛合中学校	主任 友塚 晓

事務職員といえば、一人職ゆえに考えが凝り固まる傾向にあるが、こうして地区や年代を超えて協働して課題解決に取り組んだことは、事務職員として大きな一步だと感じた。財務に関しては公費／私費、無償／有償に関しては、個々に意見が割れるところではあると思うが、きちんとデータを取り、分析し、関係各所と協議できた雲南市の取組は、素晴らしいと感じた。

学校環境改善について、オンラインを利用してアドバイスをもらったり、消耗品の状態を整えた活用の機会を作り、デッドストックを無くしたり、また、ラストワンカードを作成したりと、真似したいと思う取組がたくさんありました。日常で困り感があったとき、忙しいと放置してしまいがちですが、小さな工夫からとりあえずやってみたいと思いました。学校財務マネジメントについては、市内の学校の財務運営実態を調査して、教育委員会へ共有することで公平で適切な予算配分ができるような取組をしておられました。他市の取組を知る機会がなかなか無い中で、とても参考になりました。現在、市内他校の財務状況が全くわからぬため、他校の情報があることで自校の財務運営を客観視できるこの取組はとても良いと思いました。

学校環境を整えることで、職員の働きやすさにもつながり良い成果をあげていて素晴らしい実践発表でした。自校でも課題があるので、取り組んでみたいです。財務マネジメントの面では、市町村によって異なると思いますが、保護者の負担にならないことが大事だと思いました。他校の情報も取り入れ、予算がどうなっているか比べてみたいです。学校運営費目にも当てはめてみたいです。

環境改善については、収納レイアウトの変更は他の実践事例でも聞いたことがありましたが、「ワクワクコーナー」のような児童に還元できる取組は、他にはなく新鮮でした。ただ行うだけでなく、どのような効果や課題があったのかよく考えられていて素敵だなと思いました。すぐアドバイスができるようにオンライン会議を用いて研究を行うという発想も良かったです。学校財務については、まず、学校数も多い市単位で取組を行っているということが凄いなと思いました。取組を始めるまでも色々なご苦労があったのだろうなと思います。運営費目はどのように決められたのか気になりました。D oの部分だけでなく、きちんとPDCAサイクルにのせて、財務の土台ができているのが良いなと思いました。

片付け、整理をすることによって、環境が改善し、探す時間の短縮につながるということがよくわかりました。研究に一人で取り組むのではなくチームで取り組み、やり方を教えあったりすることで、孤独に陥ったり停滞しないのも良かった点だと思います。片付けの副産物として、コミュニケーションが活性化したことも素晴らしいです。2つ目の研究の学校財務マネジメントの発表もわかりやすく、丁寧にまとまられていました。自校でも取り入れていきたいと思いました。

実際に応用研究に参加した者として、自分で考えるよりも多くの新たな気づきがあり、とても有意義な活動になったと思いました。Zoomやキントーンを活用した意見交換をとおして、様々な視点からアイデアが生まれ、新たな取組につながりました。自分も「やってみよう」と思うことが多くあり、自身の実践のモチベーションも高まりました。私たちの実践をきっかけに、今後は「チーム」での様々な実践の輪が広がることを願っています。

< 講演 >

演題 「学校における業務改善」

講師 ベネッセ教育総合研究所 教育イノベーションセンター 主席研究員 庄子 寛之 氏

今回の講演では、4つのキーワード「つながる」、「わらう」、「わかる」、「ゆるす」を示されました。どれをとっても普段仕事をするうえで大切なことだと改めて感じました。特に様々な方とつながろうとする、わからうとする姿勢が大切で、学校を変えていく原動力になる部分だと思います。まずは、自分自身の日々の仕事の姿勢を見つめなおし、改善するところからはじめようと思いました。盛りだくさんの内容でしたが、業務改善は具体的なことばかりではなく、自分の心持ち次第でも業務改善につながっていくという内容だったのかなと思います。何事もポジティブに捉えて進んでいければいいなと思います。

いろいろなお話をしてもらいましたが、人はできていないところに目が向きやすいという話を聞いて、子どもたちに対してはできているところ、良いところを見るという視点は学校現場であるように感じているが、教職員に対してはなかなかできていないことだと改めて感じました。「つながる」、「わらう」、「わかる」、「赦す」の4つのキーワードがありましたが、どれも教員とは違った立場である事務職員だからこそ、支えになれる・力になれる部分があると言ってもらっているようで、自分もできることから始めて、教職員を支えることによって、子どもたちのためになればいいなと思いました。

タリス調査の結果や大学入試のことなど、教育を取り巻くさまざまな情報を提供いただき、求められる教師のあり方の変化、職場の人間関係に対するマインドの持ち方など、多岐にわたる内容だった。自身の情報をアップデートすることができ、仕事に取り組む際の意識を少し変えようと思った。

今の時代の学校や教育の状況を聞くことができて、発見が多くありました。例えば、掃除ひとつとっても掃除機やルンバを使うと仰っていて、今の時代に合わせて自分の頭も柔らかくしていかないといけないなと思いました。学校にもいろいろな職員がいますが、『つながる』、『わらう』、『わかる』、『ゆるす』が大切であるということを学びました。学校や企業によっては、効率化、残業削減を重視するあまり、コミュニケーションや人と人とのつながることをなくすという管理者の方も多くいるので、先生の講義を聞きやはりコミュニケーションは大切なだと実感しました。

学校の業務改善において、時代の変化に伴い、テクノロジーの進化が著しく、過去のやり方に従うのではなく、AIなど進歩してきた技術をうまく使いこなしたり、応用していくことが求められたりしているのだなと改めて感じました。また業務改善の一歩として、4つのキーワードが挙げられましたが、無いところではなくあるところに目を向けて感謝できること、他の人の意見を分かろうすること、赦すことなど、個人の心の余裕や余白が大事なことだと感じました。

教員経験の方ではありましたが、やはり民間の方の講演は多角面からの視点を交えた話が聞けてとてもよかったです。TALISの情報もすごく参考になり、世界とのちがいや、都市部との地方格差やとてもわかりやすく、AIを使いながらの説明もよかったです。今後は私自身もAIを使ってみたないと強く思いましたし、多くの教職員にも聞いていただきたいと感じました。

業務改善というテーマに固い内容をイメージしていましたが、現場の教職員の気持ち（つながる、わらう、わかる、ゆるす）にも焦点を当てて話していただき、とても聞きやすくて分かりやすかったです。近くの人と意見交換できたのも、色々な意見を聞くことができて良かったです。

時代の変化、学校現場の変化に対応できるように柔軟に仕事をしていきたい。AIの賢さに改めて驚き、活用できてないので有効に使っていきたい。講演は面白く、あっという間に終わった。普段講演など聞く機会がないので、自分から情報を取に行くことも大切だと感じた。



飯南町の事務グループ活動について

飯南町では、平成22年度から、事務グループ活動が始まり16年目を迎えています。小学校4校（内1校は、事務職員未配置）、中学校2校で加配1名を受け、6名で活動しています。

1. 事務グループ活動の目的・・・

- 児童生徒の学びを保障し、特色ある学校づくりの推進や、教育の質を高める基盤となる事務・業務の効率化・適正化を図る。
- 事務グループ活動の活性化を図り、専門性を高めるとともに、各校の事務機能の強化を図ることで、学校事務職員が学校運営に積極的に参画し、学校教育の充実を目指す。

2. 組織図・・・

飯南町学校事務グループ推進協議会 組織図

【 協議会 】	
会 長	飯南町教育委員会教育長
副会長	飯南町立小・中学校校長代表 1名
委 員	飯南町立小・中学校教頭代表 1名
事務局	事務グループ代表者 2名 教育委員会担当職員

飯南町教育委員会

飯南町校長会

飯南町教頭会

《飯南町学校事務グループ》

飯南町内の町立小・中学校

赤来中学校

頓原中学校

頓原小学校

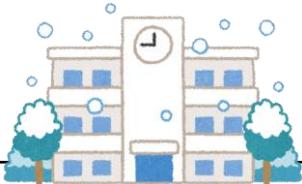
赤名小学校

来島小学校

事務支援

志々小学校（学校事務職員未配置校）

★グループ5校に兼務発令



3. 今年度の活動内容・・・



項目	具体的な内容
備品の共同購入	・予算の有効な執行につながる備品の共同購入を実施し、備品の早期購入による有効活用を図る。次年度予算要求後の最終処理が1月中に行えるように計画する。
備品台帳システムの改修	・登録、廃棄入力や点検簿等の書類作成が簡単にできるシステムへ改修を行う。
「事務だより」の発行	・事務グループの取組や給与・サービス・福利厚生等について教職員へ情報提供を行う。
就学援助事務の充実	・教育委員会と連携して就学援助制度についての研修や要望を行う。
事務カレンダー	・提出や報告を求められる文書を月ごとにまとめた事務カレンダーを毎月確認、更新しながら活用する。
新規採用者・未配置校等支援	・新規採用事務職員や事務職員未配置校に対して各種業務についての支援を行う。
給与・旅費等の実務資料整備	・研修や実務から得た給与・旅費に係る資料の整備を図る。また、諸手当・年末調整事務や旅費関係書類の相互チェックを行う。
教科書システムの入力事務	・教科書の需要数調査、納入指示書、転出入等、教務主任と連携して、各校事務職員がシステムの入力事務や書類作成を行う。
全校バス予定確認表	・町内6校のバス予定を調整する。

令和5年度から町内グループ5校の事務職員が兼務発令を受けたことにより、これまで以上に各校との連携や事務部門の強化に向けた活動を進めていけるようになりました。

活動については、毎月1回、半日程度のグループ会を開催し、全体に共通する業務改善に向けた検討や協議を行い、事務機能の強化を図れるよう取り組んでいます。

なお、正確かつ効率的な事務処理を進めていく手立てや1人職場でどのように仕事の理解を得ていくかなども話し合っています。書類の相互チェック、グループ内OJTによる事務職員の資質向上・人材育成にも力を入れる必要があります。

また、飯南町教育委員会や校長会・教頭会とも連携し、有効な予算執行や施設設備の改修、保護者負担軽減など、より望ましい教育環境の整備に向けて取り組んでいます。

小さな町に1つしかない小さなグループです。何を行うにも全員で協力して行わなければできません。教員の働き方改革（教職員の専門性を活かした質の高い教育の推進、事務負担軽減）も考えながら、ゆっくりあせらず活動を積み重ねていきます。





学校紹介

出雲市立旅伏小学校

福代 仁美



出雲市立旅伏小学校は令和7年度に、4校(国富小、西田小、鰐淵小、北浜小)が統合し旅伏小学校として開校しました。全校児童208名が元気に過ごしています。

事務職員が統合で関わった主な業務のひとつに、4校から移設する備品の配置計画がありました。どの部屋に何をいくつ配置するのか、実際にサイズは収まるのか、教育活動を進めるうえで不足しているものは無いかななど、学校の規模、児童・職員の人数等、さまざまな視点から新校舎図面を確認しました。4校の事務職員で連絡調整を行いながら進めました。統合までに、4校の教職員が連携し準備をしてきたことが現在の旅伏小学校の色々な場面で生かされています。また、今年度1学期間は、事務支援員が配置され2名体制で年度当初事務や統合後の環境整備を進めており、スムーズな学校運営のスタートにもつながっています。



旅伏小学校の校歌は、校名の「旅伏小学校」にある「旅」の言葉に、旅伏山から湧き出て、校区を流れる川、そして、それが海や田畠に至るという、豊かな「水」のイメージを重ね合わせ、作詞されています。

水の流れを表しながら、地域の豊かな自然をイメージして、心を込めて歌うことができる曲です。

人生という「旅」の中で過ごす旅伏小学校での時間が、児童や先生、また地域の人々にとってかけがえのないものになってほしいという思いが込められています。また、西田・国富・鰐淵・北浜の文字も入っており4地区への思いも込められています。



原作・画：佐伯 圭一

【編集後記】

今年度から勤務校の池で金魚とめだかを飼い始めました。年度途中に地域の方から寄贈いただいた川魚も入れて、中々の大所帯となっています。最初は職員でエサをあげていましたが、児童たちが「自分もエサをあげたい！」と言い、休み時間にエサをあげようになりました。黒い金魚に「スイミー」と名づけるなどとても可愛がっていて、児童の情操教育の一助となっています。ただ、児童が熱心にエサをあげているためか、金魚たちがメタボ傾向で少し心配しています…。(M・K)